家庭内の問題解決ツールとしての親子をつなぐサポートブックの事例研究

～効果の可視化を通じて活用の可能性を探る～

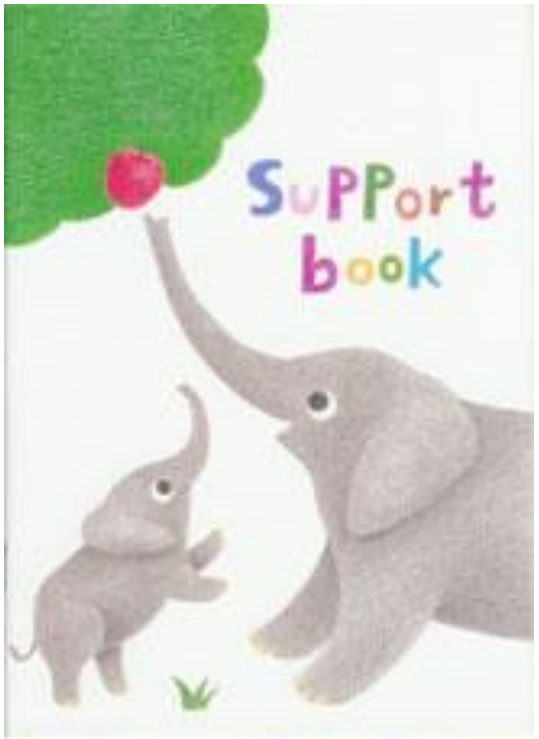
総合政策学部4年　要田麻美

研究背景

少子化が進むなか、親子が十分に向き合うことのできない家庭は少なくない。過去30年の調査において、親子の対話は過去30年程度において、**一貫して重要であると認識されている**ものの、近年になるほど、**人々は親子で対話が十分できていないと感じている。**

（出展：平成19年度版国民生活白書）

研究対象：親子をつなぐサポートブック



作成経緯

がんを患う親とその子どものコミュニケーションに問題を感じた広島の医療関係者、色彩プロデューサー、建築家がサポートブック作成プロジェクトチームを結成し2008年に作成した**書き込み型絵本**。
これまでに**13000部以上が配布、販売**された。

使用方法

当初想定していた医療分野だけでなく、中国新聞で特集連載記事が組まれたことから広島県を中心に介護、教育といった様々な分野で活用が進んでいる。

研究の目的とRQ

研究目的

サポートブックの効果を検証すると共に、サポートブックがより効果的に機能する条件を明らかにすること

- RQ1：サポートブックの効果とはどのようなものか。
- RQ2：どのような条件でサポートブックを使用した場合、サポートブックはより効果的に機能するのか。
- RQ3:サポートブックのどのような側面が、親子の関係性を変化させるのか。

研究手法　①定性調査

調査対象	日程	目的
サポートブック作成プロジェクトチーム代表　田中丈夫医師	2010年8月17日	サポートブックの実態把握
中国新聞 木ノ元陽子・平井敦子記者	2011年3月1日	取材内容の把握
訪問看護師Iさん	2011年3月1日	医療分野におけるサポートブックの効果の把握
サポートブック活用者 Sさん	2011年3月1日	サポートブックの使用経緯・効果の把握
サポートブック作成プロジェクトチームメンバー 稲田景子さん	2011年11月10日	サポートブックの展開状況把握
子育てセミナー参加者（サポートブック活用者）Mさん・Yさん	2012年12月4日	サポートブックの効果把握

研究手法 ②定量調査

	なぎさ公園小学校		子育てセミナー参加者	
調査対象	2011年度の2年生とその保護者		「やさしいイラストのサポートブックで親子の宝物をつくってみませんか？」セミナーへの参加者	
回収率	53.1%（96組中51組）		83.3%（18名中15名）	
調査期間	2012年9月13日～9月26日		＜使用前＞ 2012年9月14日	＜使用後＞ 2012年9月24日～9月30日
アンケート項目	＜生徒用＞ ・親子関係の状況 ・使用状況 ・活用効果 ・サポートブックを使っての感	＜保護者用＞ ・使用状況 ・活用効果 ・サポートブックの評価 ・サポートブックを使っての感想	＜使用前＞ ・親子関係の状況	＜使用後＞ ・親子関係の状況 ・使用状況 ・活用効果 ・サポートブックの評価 ・サポートブックを使っての感想

RQ1への回答

RQ1：サポートブックの効果とはどのようなものか

- 親子が向き合うきっかけになる
- 日頃言えない思いを伝えることができる
- 気持ちを確かめることができる
- いつでも読み返すことができる

RQ1への回答

■親子が向き合うきっかけになる

問題を抱えている親子にとっては、サポートブックが向き合うきっかけとなる場合がある。

訪問看護師Iさんへのヒアリング調査より。

一般的に言うと、サポートブックの効果っていのは親も悶々としているし子どもも悶々としている、そこにこういうツールがいけばね、心通うコミュニケーションができてそれが財産として残ってくんだと思いますね。

サポートブック活用者Sさんへのヒアリング調査より。

きっかけづくりなんですよね。このことについて本当に話したかと言ったらそうじゃなかったかもしれない。向き合ったことがないから話につまるんですよ。サポートブックのことをみんなきっかけと思ってやっていないかもしれないけど、きっかけになっているんだと思う。

RQ1への回答

■日頃言えない思いを伝えることができる

サポートブックでは名前の由来や子どもの好きなところといった「当たり前のことではあるが日頃言えないことを伝える」ことができ、そのようなことを伝える機会やツールは子育てを行う中で限られたものである。

サポートブック活用者Mさんへのヒアリング調査より。

早くママみたいなお母さんになりたい、というのはびっくりしました。今までこういうことは言われたことないです。口で言うのはちょっと恥ずかしかったんだと思います。

＜交換日記との比較＞

Mさんへのヒアリング調査より。

生まれた時の話とか名前の由来とかその日々とはちょっと違うけど娘にとっては聞いてみたいこと。そういうことって普段の交換日記では聞けないこと。

RQ1への回答

■気持ちを確かめることができる

子育てに追われていると忘れてしまいがちである子どもへの気持ちを、サポートブックを通じて確かめることができたという効果も観察された。

アンケート調査「サポートブックを使っての感想」より。

2人の子育で毎日慌しい日々を過ごしていますが、サポートブックを書き込んでいく作業は子どもが産まれた時の気もち、そして現在の子や自分のことを改めて考えてみる時間になりました。

■いつでも読み返すことができる

書き込み型絵本であるサポートブックは、絵本として形に残しておけるため、いつでも読み返して気持ちを振り返ることができる。

サポートブック活用者Yさんへのヒアリング調査より。

（サポートブックの役割は）フラットな感覚であ、幸せだなっていうのを思い出させてくれる。どーんと落ちてきたときもまっすぐ戻れる、上がりすぎてても冷静になれるとかそういう感じですかね。

RQ2への回答

RQ2：どのような条件でサポートブックを使用した場合、
サポートブックはより効果的に機能するのか

- 作成経緯を知っている
- 使い方の例示がある
- 親子に信頼関係がある

RQ2への回答

■作成経緯を知っている

なぎさ公園小学校保護者用アンケート調査結果からフィッシャーの直接法で「作成経緯を知っているか」と活用効果を問う設問の検定を行った。

作成経緯を知っているか	話す機会が増えたか
	育児への不安は減ったか
	子どもに日ごろ言えない思いを伝えられたか
	子どもが親子関係をどのように思っているかを知ることができたか
	子どもが親にどのようなことを求めているかがよくわかるようになったか

作成経緯を知っているかどうかで、3つの活用効果について有意な差が見られた。

RQ2への回答

■使い方の例示がある

ヒアリング調査を行ったYさんとMさんは、サポートブックは使い方の例示がないと効果的に使うことが難しいと述べていた。

Mさんへのヒアリング調査より。

使っている例を実際に教えてもらうとそういう使い方できるんだーと気づかされて。じゃあ私はこう使おうとか、アイデアがそこで出てくるんで、ああいう形の経験者の人に話してもらう、その話を聞けるだけでも使いやすくなると思います。

しかし、アンケート調査結果をもとにしたフィッシャーの直接法では有意差は見られなかった。

使い方の例示の有無はサポートブックの活用効果には
直接的な影響は与えないが、サポートブックを使用するに
至るかどうかに影響を与える可能性がある。

RQ2への回答

■親子に信頼関係がある

なぎさ公園小学校生徒用アンケート調査結果から、親子関係の状況で活用効果に有意差が見られるか検定したところ、「おうちの人に頼りにされていると思うか」どうかで「話す機会の増加」にフィッシャーの直接法で５%水準で有意差が見られた。

サポートブックを効果的に使うためには親子の信頼関係が必要？

「話す機会は増えたか」以外の活用効果を問う5つの設問については有意差が見られなかったこと、フィッシャーの直接法はあくまで2つのカテゴリーに分類したデータに有意差があるかどうかを示す検定であり因果関係を示すものではないことに注意。

信頼関係がなくてもサポートブックの効果を感じるケースは多くある。

RQ3への回答

RQ3：サポートブックのどのような側面が、
親子の関係性を変化させるのか

- 質問の内容
- 書き込み型という形式

RQ3への回答

■質問の内容

サポートブックの質問内容は、「日頃言えない思いを伝えることができる」という活用効果に関わる。

サポートブック活用者Yさんへのヒアリング調査より。

会話とかおもちゃを通してとかだと、やっぱり一体一のコミュニケーションになりますよね。サポートブックが入るとインタビュワーみたいな人がいるというか、第三者的な視点から会話を振ってもらえるような感じがある。

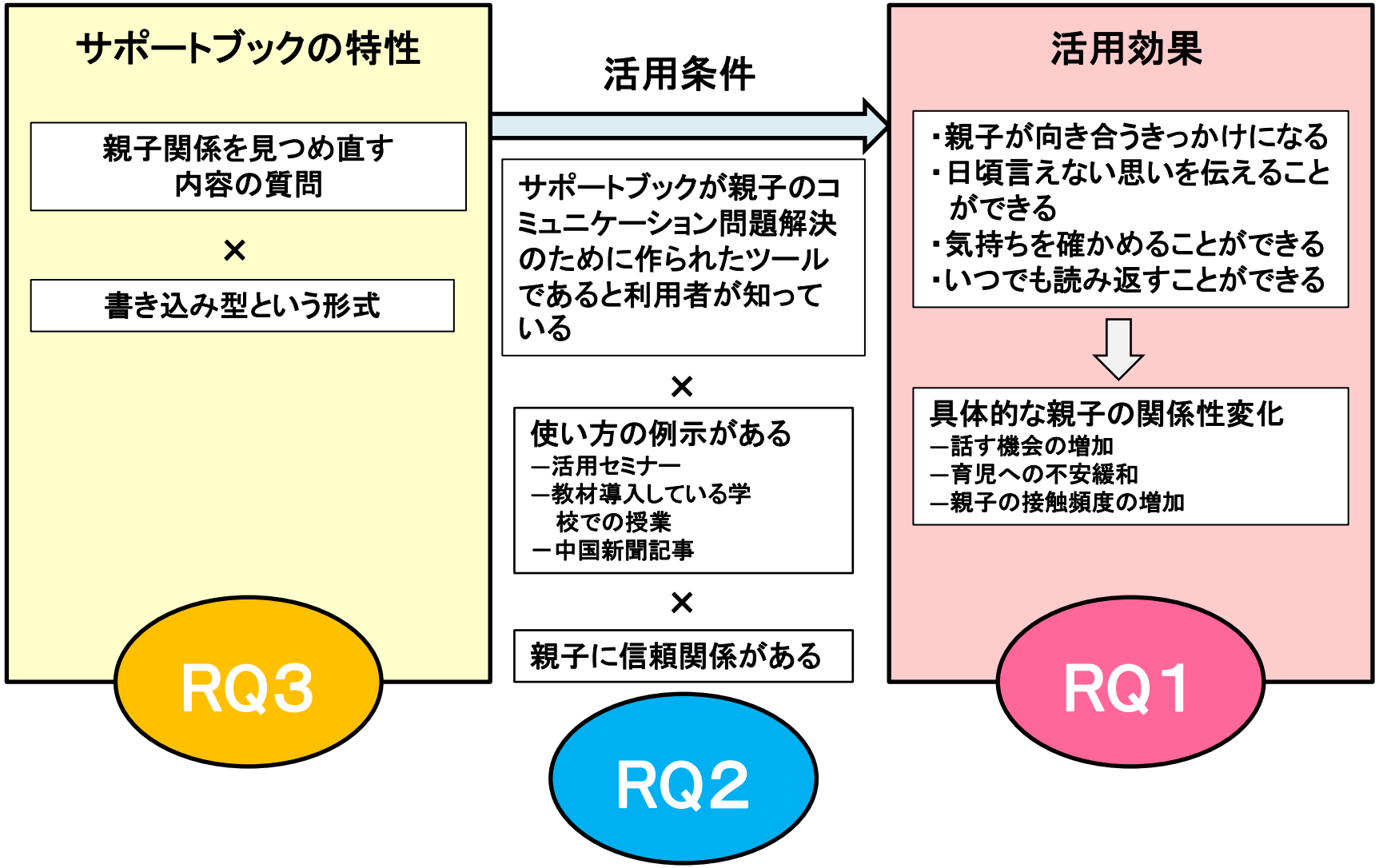
■書き込み型という形式

書き込み型という形式も、サポートブックの活用効果に影響を与えている。

アンケート調査「サポートブックを使っての感想」より。

「書く」という行為をすると、その時の状況がよみがえってきて、忘れていたエピソードまで思い出したりして。夫とのこと、娘とのこと、普段考えることのないことをたくさん考えた時間を持つことができました。

アローダイアグラム


サポートブックの特性
親子関係を見つめ直す
内容の質問
×
書き込み型という形式
RQ3
活用条件
サポートブックが親子のコミュニケーション問題解決のために作られたツールであると利用者が知っている
×
使い方の例示がある
―活用セミナー
―教材導入している学校での授業
―中国新聞記事
×
親子に信頼関係がある
RQ2
活用効果
・親子が向き合うきっかけになる
・日頃言えない思いを伝えることができる
・気持ちを確かめることができる
・いつでも読み返すことができる
具体的な親子の関係性変化
―話す機会の増加
―育児への不安緩和
―親子の接触頻度の増加
RQ1

本研究の成果

① なぎさ公園小学校、子育てセミナー参加者を対象とした調査結果から、重篤な問題を抱えない一般の親子にも効果があることが示された。

② サポートブックの効果的な使い方、条件を体系的に示すことができた。

自治体の子育て・教育施策として
取り入れられる第一歩に。